

## 社会で支える性暴力被害者支援の未来 一人づくり・場づくり・チームづくりで悪循環を断ち切る

2016年1月なごみ開設

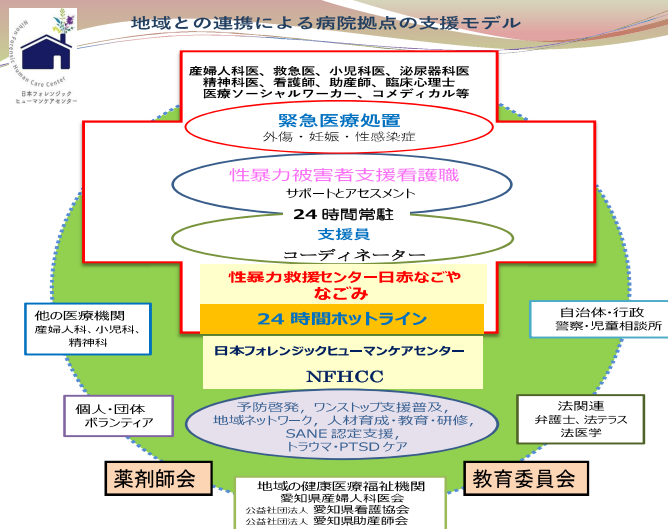
24時間365日体制

性暴力被害者支援  
看護師(SANE)  
59名活動



日本フォレンジックヒューマンケアセンター(NFHCC)  
片岡 笑美子

## 地域との連携による病院拠点の支援モデル



2016年1月5日~2021年12月31日

## 6年間の総計

電話延べ件数 8687件  
来所延べ件数 2563件  
診察延べ件数 802件

新規受付実人数 1774名  
そのうち面談相談実人数 824名

(性暴力救援センター・日赤なごみや)

## コロナ禍でのDV・虐待・性暴力



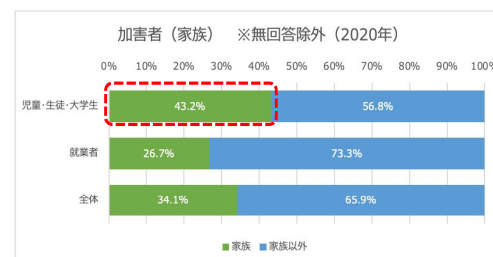
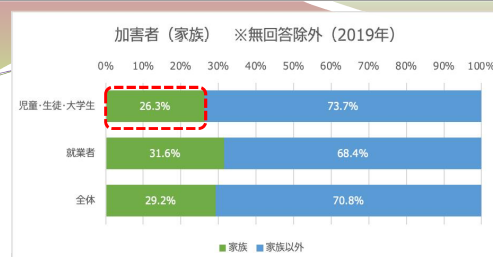
## データから見える なごみ来所者のCOVID-19の影響

### 一児童・生徒・大学生と就業者の比較一

対象時期 2019年1月~2020年12月

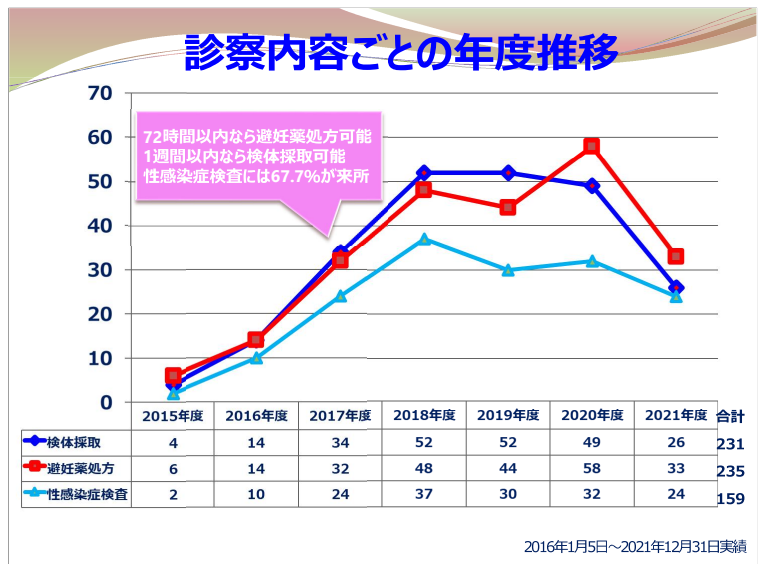
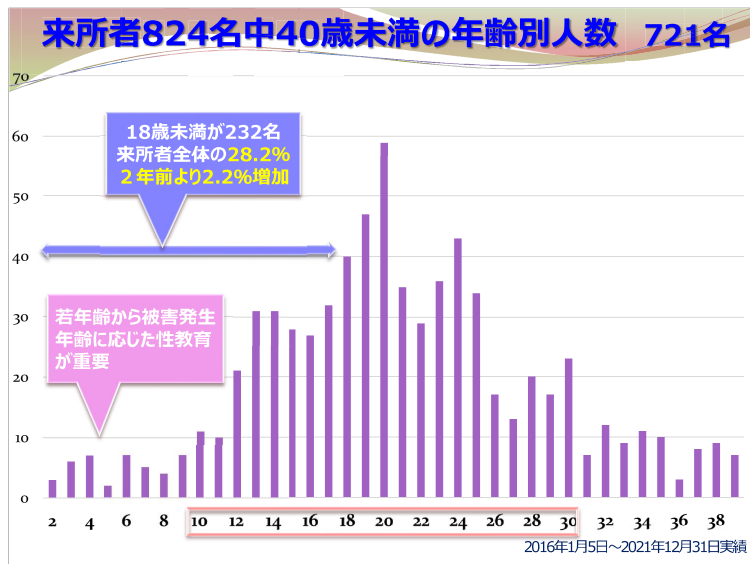
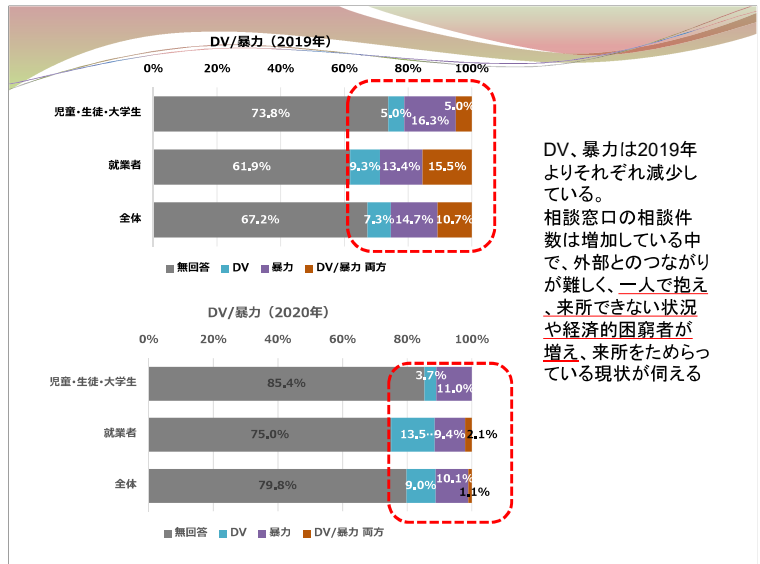
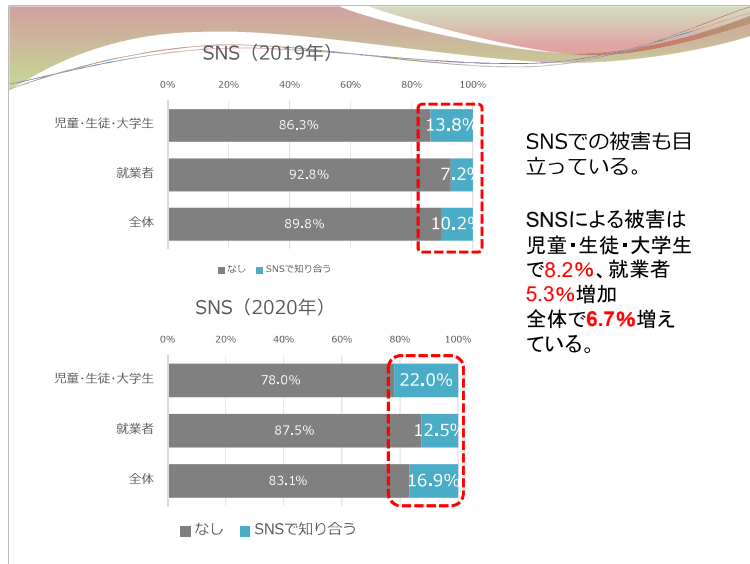
対象者数 2019年1月~12月 177名  
2020年1月~12月 178名

対象者 児童・生徒・大学生  
就業者(現在無職含む)



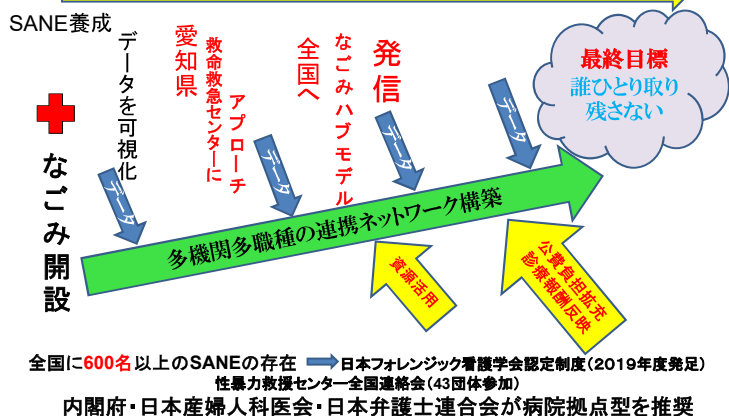
コロナ禍の2020年は、2019年に比べて児童・生徒・大学生で「家族からの被害」割合が大幅に増えている。

児童・生徒・大学生は26.3%から43.2%と16.9%増加



- 課題解決のアプローチ**
1. 病院拠点型ワンストップ支援センター増設・拡大に向けた取り組み  
県内救命救急センター看護師をSANE養成開始
  2. 科学的エビデンスのあるトラウマ対応方法の普及  
トラウマに対応できる人材の育成
  3. 多機関多職種の連携チームを支援する情報共有とシステムづくり
  4. データの標準化・蓄積・分析
  5. 社会へ向けた普及活動  
性教育

## ワンストップ支援センター拡大に向けた取り組み



## 愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業5カ年計画

(2019年度～2023年度)

- ・愛知県救命救急センターの看護師を、性暴力被害者支援看護職(SANE)として育成し、地域で急性期対応ができる体制を整備する。
- ・なごみをハブとした地域連携ネットワークを構築する
- ・病院拠点型ワンストップ支援センターを増設する

| 年度                 | 救命救急センター施設数 | SANE養成プログラム受講施設及び看護師数            | その他機関・施設からの受講者数 |
|--------------------|-------------|----------------------------------|-----------------|
| 2019年度(対面)         | 23施設        | 18施設26名                          | 6名              |
| 2020年度(オンライン・一部対面) | 24施設        | 11施設18名<br>精神科施設3名               | 10名             |
| 2021年度(オンライン・一部対面) | 24施設        | 11施設20名<br>精神科医療施設1名<br>小児医療施設3名 | 10名             |

2年連続受講病院5施設 3年連続受講病院6施設

## 性暴力被害者支援体制とSANE活動状況調査(愛知県)

調査期間 2021.6.24～7.23  
対象施設 救命救急センター 24施設  
回答 21施設(87.5%) 非公開4施設

1. SANE配置 17施設82名
2. 性暴力被害者件数 8施設585件(なごみ以外 36件)  
SANE対応件数 4施設477件(なごみ以外 19件)
3. 来院時対応部署 救命救急センター14カ所(単独1カ所)  
産婦人科15カ所(単独は2カ所)  
小児科6カ所  
なごみ1カ所
4. なごみへの連携体制整備 5カ所
5. なごみへ連携件数 4件



## MDT (Multidisciplinary Team: 多機関多職種連携チーム)

### への取り組み

#### 目的

医師、SANE、MSW、警察、児童相談所、弁護士、司法面接スタッフなどが一同に集まり、支援内容の検討や方向性など、課題解決に向けて話し合う。

#### 現状

- ・被害者はそれぞれの機関で何度も聞かれる(再体験する)
- ・情報のやりとりは口頭が多い
- ・情報の収集内容や提供に差がある
- ・情報は一方通行でフィードバックがない
- ・個人情報の扱いの違い
- ・支援内容を話し合う場がない(中断の危険性)

#### 対応

1. 警察・児童相談所へのヒヤリング
2. 情報共有シートの作成(入力データ活用)
3. 警察  
情報共有シートの活用は難しい  
情報共有シートの内容はその時に聞いて情報を得てほしい  
情報交換のための話し合い
4. 児童相談所  
情報共有シートを活用する  
司法面接に参加できるよう声をかけてもらう  
オンラインでケースミーティング開始する  
情報の共有化とプロトコルを作成中



## データの標準化・蓄積・分析への取り組み

#### 目的

- ・データベースの標準化を図り、適正な支援・治療につなげる
- ・多機関多職種で活用する
- ・データ分析とエビデンスの蓄積
- ・政策に反映する

#### 現状

- ・支援者・支援窓口により、収集する情報に差がある。
- ・入力した相談ケースシートからエクセルに入れなおす
- ・記述式が多いため時間がかかる
- ・連携に活用できるデータの蓄積が不十分

#### 対応

- ・データベースの見直しを行い、標準化を図る

## 性暴力被害者支援員研修に向けて

ISVA - JAPANプロジェクトチーム

### イギリスに学ぶ性暴力被害者支援

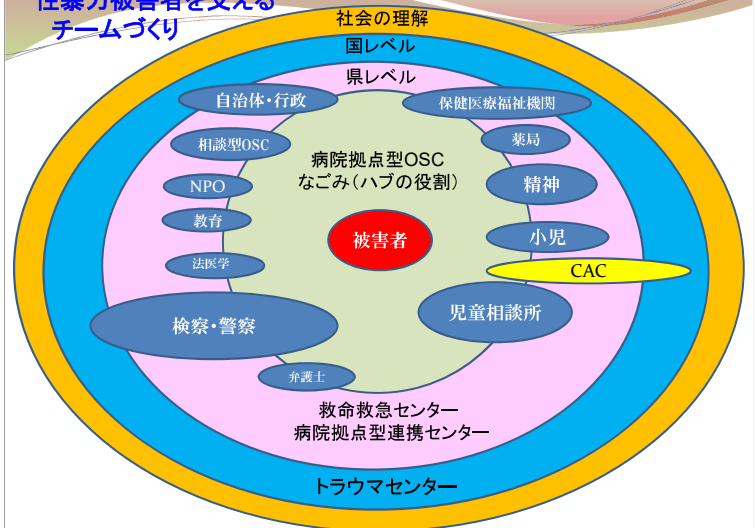
ISVA (Independent Sexual Violence Advisor)

ISVAはイギリスの性暴力被害者支援に関わる資格性暴力被害者のためのワンストップ支援センターやレイプクライシスセンターに所属し、警察や司法機関とは独立した存在として、被害者の刑事司法プロセスの支援を行う

研修は、職種問わず受講可能

ISVA日本ワークショップ  
イギリスとのオンライントレーニング  
2022年1月15日～2月20日  
10セッション 各3時間

## 性暴力被害者を支える チームづくり



## 現場で使う絵本を 作りました



株式会社ともあ <https://tomoa.co.jp/>  
アマゾンでも購入できます。